インドネシア，バリ島の慣習的水利組織，スバック

1. 地域の概況

「神々の島」として知られる世界有数の観光地であるインドネシアのバリ島は、人口の三分の一が農林漁業従事者である。

バリ島の北部、西部、そして東部はココナツ・コーヒーの樹園地や大豆・サツマイモ・落花生などの畑が広がるが、島中央部の火山帯の南側山麓には、豊かな水と肥沃な土壌の平野が広がり、水田稲作が盛んにおこなわれている。

図 インドネシア、バリ島
出典：Google マップ.
http://maps.google.co.jp/maps?hl=ja&tab=wl

2. 水利組織スバック(*subak*)

観光資源としても有名な棚田を代表とするバリ島の水田景観は、水利組織、スバックにより支えられている。スバックとは、堰によって分水されたひとつの水流から灌漑される水田の所有者・耕作者によって構成される慣習的な水利組織であり、少なくとも 900 年の歴史があると言われている。スバックは、水をすべての耕作者に対して平等に配分するためのものである。

写真1. バリの棚田

各スバックはそれぞれに自らの寺院を保有し、取水堰にも寺院や石製の祭壇が設えられている。スバックは、水利に関わる活動だけではなく、稲の女神デウィ・スリ(Dewi Sri)や水の神とされるブタラ・ウィスヌ(Brata Wisnu)に対して豊饒儀礼など祭祀活動を行う組織でもある。

3. 水田生態系の持続的利用を支えるルール

スバックの構成員は、定期的に開かれるサンクパン(*sangkepan*)と呼ばれる寄り合いで、スバックの長を互選するほか、田植え時期、耕作に関わる義務、公平な水の分配に関するルール、盗水などの違反行為に対する罰則など、アウィグ・アウィグ(*awig-awig*)と呼ばれる合意事項を定める。スバックの構成員がこうした合意事項を遵守してきたことで、水資源を公平で持続的な利用が実現され、山がちな地形に広がるバリ島の水田生態系が長年維持され、またそれによって水田生態系に何らかの形で依存する生物の多様性がまもられて

写真2. 灌漑水路

きたと考えられる。しかしながら、現在では、特にデンパサール周辺地域を中心に、水田の宅地化が進み、また、ゴミや水質汚染などの問題も生じている。

参考文献

Suradisastra, K., Sejati, W.K., Supriatne, Y., and Hidayat, H. 2002. Institutional Description of The Balinese Subak, Jurnal Litbang Pertanian 21(1):11-18.